
 資 料

「PCA グループ」及び「PCAGIP 法」に関する文献リスト (2020)

 古谷 浩*1・原口淑子*1・中山美枝子*1・重松初代香*2
 北田朋子*3・中山幸輝*1・村山正治*1

はじめに

我々は、『「PCA グループ」及び「PCAGIP 法」に関する文献リスト (2019)』に引き続き、「PCA グループ」と「PCAGIP 法」のこれまでに報告された研究論文、研究発表、実践報告をまとめ文献リストを作成した。文献リストは、「PCA グループ」と「PCAGIP 法」の今後の実践、研究の発展と、多くの実践者と研究者に課題探索のための1つの手がかかりを提供するために作成した。本文献リストを作成するにあたり、坂中正義 (2014)「日本における「来談者中心療法」及び「体験課程療法」に関する文献リスト (2013)』『南山大学人間関係センター紀要「人間関係研究」』13,231-255.を参考にした。

方法

2020年までに発行された「PCA グループ」と「PCAGIP」のキーワードが論じられている文献、ならびに「PCA グループ」と「PCAGIP」の開発、実践に際して参考にされた文献を収集した。分類方法は、「PCA グループ」と「PCAGIP」それぞれについて、A. 書籍、B. 書評、C. 研究論文、D. 学会発表、E. 翻訳に分けて収録した。

文献は、できる限り手広く収集に努めたが、不備も予想される。不備については皆様からの

ご指摘をいただき、今後の文献リストの中で訂正、追記していきたい。

第1部：PCA グループ

PCA グループ (Person-Centered Approach Group) は、Rogers (1980) の「個人は自分の内部に自己理解や自己概念、基本的態度、自発的行動を変化させていくための大きな資源を内在させており、それらは心理的に定義可能な促進的な態度が提供されればこれらの資源が動き出す。」という考え方を基本仮説とし、実際のグループ実践につながる実践的仮説を立て、それを基にグループを運営していく方法である (村山, 2006、鎌田ら, 2004)。実践仮説とは、エンカウンターグループ (以下、EG) を学校教育に導入する場合の学生の特徴を考えるとから生まれ、グループの初期段階に高まる初期不安や、やらされ感を低減するようにグループを行えばよいかについて示したものである。実践仮説は、①はじめに個人ありき②所属感の尊重③バラバラで一緒④心理的安全性の醸成⑤ありのままにいられる自分⑥自発性の発揮の6つの仮説に基づいて実践されている。現在、PCA グループは看護学校を中心に、小・中・高校領域、医療領域、産業領域など多領域で広がりを見せている。

A. 書籍

1. 安部恒久 (2006) 『エンカウンター・グ

*1 東亜大学大学院 総合学術研究科

*2 専門学校 北九州看護大学校 学生相談室

*3 東亜大学人間科学部 心理臨床・子ども学科

- ループ—仲間関係のファシリテーション—』九州大学出版会
2. 安部恒久 (2010) 『グループアプローチ入門—心理臨床家のためのグループ促進法—』誠信書房
 3. 平山栄治 (1998) 『エンカウンター・グループと個人の心理的成長過程』風間書房
 4. 木村太一 (2014) 「みんなで 100 マス作文」村山正治監修・鬼塚淳子編『じぶん&こころまなぶ BOOK』培風館, 48-51.
 5. 國分康孝監修 (1999) 『エンカウンターで学級が変わる—ショートエクササイズ集—』図書文化社
 6. 村山正治 (2008) 「エンカウンターグループによってクラス内に信頼のネットワークができる試み—PCA グループの視点から—」『現代のエスプリ別冊 臨床心理士によるスクールカウンセリングの実際—コラボレーションを活かす時代へ—』至文堂, 99-110.
 7. 見藤隆子 (1991) 「看護とエンカウンター・グループ」村山正治ほか編『エンカウンター・グループから学ぶ—新しい人間関係の探求—』九州大学出版会, 109-120.
 8. 村山正治編 (2014) 『「自分らしさ」を認める PCA グループ入門—新しいエンカウンターグループ法—』創元社
 9. 中田行重 (2005) 『問題意識性を目標とするファシリテーション—研修型エンカウンター・グループの視点—』関西大学出版部
 10. 野島一彦 (2000a) 『エンカウンター・グループのファシリテーション』アカニシヤ出版
 11. 武井麻子 (2002) 『グループ』という方法』医学書院
 12. 高松里 (2004) 『セルフヘルプ・グループとサポート・グループ実施ガイド—始め方・続け方・終わり方』金剛出版
 13. 高松里編 (2009) 『サポート・グループの実践と展開』金剛出版

B. 書評

1. 神田橋條治 (2015) 『「自分らしさ」を認

- める PCA グループ入門—新しいエンカウンターグループ法— (村山正治編著)』『こころの科学』181, 103.
2. 山田俊介 (2015) 『「自分らしさ」を認める PCA グループ入門—新しいエンカウンターグループ法— (村山正治編著)』『人間性心理学研究』33(1), 79-80.
 3. 太田裕一 (2015) 『「自分らしさ」を認める PCA グループ入門—新しいエンカウンターグループ法— (村山正治編著)』『心理臨床学研究』33(3), 333-334.

C. 研究論文

1. 相澤亮雄・荒木佳奈子ほか (2009) 「平成 20 年度タイアップ・プログラムにおける集中合宿エンカウンター・グループの試み—PCAGroup における企画と運営の実際—」『九州産業大学大学院附属臨床心理センター紀要 心理臨床研究』5, 69-80.
2. 相澤亮雄・衛藤春菜ほか (2017) 「看護学生の入学初期に実施した 1 泊 2 日の PCA グループの効果測定—PCA グループ的学級集団形成尺度による検討—」『東亜臨床心理学研究』16, 13-20.
3. 相原誠 (2010) 「大学生を対象とした合宿型集中エンカウンター・グループの効果の検討」九州産業大学国際文化学部臨床心理学卒業論文
4. 相原誠 (2012) 「大学生における PCA グループ体験の意味—PCA 的所属感の高低に注目した検討—」九州大学大学院国際文化研究科修士論文
5. 安部恒久 (2002) 「既知集団を対象としたエンカウンター・グループのファシリテーション」『心理臨床学研究』20(4), 313-323.
6. 平山栄治・中田行重・永野浩二・坂中正義 (1994) 「小企画：研修型エンカウンター・グループにおける困難とファシリテーションについて考える」『九州大学心理臨床研究』13, 121-130.
7. 保坂亨・岡村達也 (1986) 「キャンパス・エンカウンター・グループの発達の・治療的意

- 義の検討」『心理臨床学研究』4(1), 15-26.
8. 巖岩秀章 (2001) 「グループの構成・非構成に関する考察」『日本女子大学カウンセリングセンター報告』23, 1-6.
 9. 巖岩秀章 (1990) 「プログラム・オーガニゼーションの重要性—構成的エンカウンター・グループの事例を通しての考察—」『集団精神療法』6(2), 151-155.
 10. 福井康之 (1996) 「エンカウンター・グループでは何が起るのか (6)」『ENCOUNTER—出合いの広場 (人間関係研究会機関誌)』21, 66-76.
 11. 鎌田道彦・村山正治 (2002) 「入学初期にクラスの対人関係につまづきがあった学生への支援—エンカウンター・グループを通して—」『人間性心理学研究』20(2), 90-100.
 12. 鎌田道彦 (2002) 「入学初期に必修授業として実施したエンカウンター・グループの効果の検討—自己像の肯定的変化・対人不安の軽減・共感の増大—」『人間性心理学研究』19(2), 82-92.
 13. 鎌田道彦・下川昭夫 (2002) 「エンカウンターグループにおけるドロップアウトの意味」『東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理相談研究センター紀要』2, 15-22.
 14. 鎌田道彦 (2003) 「PCAGroup の基本的視点の提案と展開—学校現場における事例研究による検討—」東亜大学大学院総合学術研究科博士学位論文
 15. 鎌田道彦・本山智敬・村山正治 (2004) 「学校現場における PCAGroup 基本的視点の提案—非構成法・構成法にとらわれないアプローチ—」『心理臨床学研究』22(4), 429-440.
 16. 鎌田道彦 (2004) 「現代の学生の心理的特長に対する PCAGroup の有効性—看護学校卒業前のエンカウンター・グループにおける対人不安・自己像・共感の測定—」『東亜臨床心理学研究』3(1), 9-18.
 17. 鎌田道彦 (2007) 「『PCAGroup 基本的視点』に基づく看護学校のニーズに応じたエンカウンター・グループの展開—クラスへの適応と臨床心理学的態度の促進—」『人間性心理学研究』25(2), 165-178.
 18. 鎌田道彦・村山正治 (2010) 「必修授業のエンカウンター・グループにおける参加できないメンバーの『参加しない参加の仕方』の意味について」『人間性心理学研究』28(4), 502-512.
 19. 河村茂雄 (2001) 「構成的グループ・エンカウンターを導入した学級経営が学級の児童のスクール・モラルに与える効果の研究」『カウンセリング研究』34(2), 153-159.
 20. 河野志穂利・拓植薫・中村百合香 (2011) 「平成 22 年度タイアップ・プログラムにおける集中学習エンカウンター・グループの試み—PCA グループによる企画と運営の実態 (九州産業大学国際文化学部臨床心理学科・大学院国際文化研究科臨床心理学研究分野における体験実習タイアップ・プログラム 2010)」『九州産業大学大学院附属臨床心理センター紀要—心理臨床研究』7, 43-53.
 21. 木村太一・相原誠・村山正治 (2013) 「大学 1 年生を対象とした PCA グループ実施の試み—入学初期の不安緩和と仲間関係の育成を目的として—」『福岡国際大学紀要』29, 55-60.
 22. 小城真寿美・田中沙織ほか (2006) 「タイアップ・プログラムにおける集中合宿エンカウンター・グループの試み—PCAGroup における企画と運営の実際—」『九州産業大学大学院附属臨床心理センター紀要—心理臨床研究』2, 55-66.
 23. 小柳晴生 (1996) 「特集 2 グループアプローチの危険・副作用とそれへの対応—ベシク・エンカウンター・グループの場合—」『ENCOUNTER—出合いの広場 (人間関係研究会機関誌)』21, 27-30.
 24. 本山智敬 (2010) 「1 年次演習科目におけるグループワーク導入の試み—PCA グループの視点から—」『福岡大学研究部論集 A』10(1), 25-34.
 25. 森園絵里奈・野島一彦 (2006) 「『半構成方式』による研修型エンカウンター・グループ

- の試み』『心理臨床学研究』24(3), 257-268.
26. 宮崎伸一郎 (1983) 「看護学生エンカウンター・グループにおけるファシリテーションの方法に関する一考察」『九州大学心理臨床研究』2, 77-87.
 27. 村山正治 (2006) 「エンカウンターグループにおける「非構成・構成」を統合した「PCA グループ」の展開—その仮説と理論の明確化のこころみ—」『人間性心理学研究』24(1), 1-10.
 28. 村山正治 (2007) 「いじめの予防：エンカウンターグループによる学級づくり—PCA グループの視点から (特集 いじめと学校臨床)」『臨床心理学』7(4), 493-498.
 29. 村山正治 (2008) 「PCA グループの試みと実践を中心に」『人間性心理学研究』26(1・2), 9-16.
 30. 村山正治 (2009) 「PCA グループの現状と今後の展望」『人間性心理学研究』27(1・2), 81-86.
 31. 村山正治・黒瀬まり子 (2009) 「学校における PCA グループの実践と展開」『子どもの心と学校臨床』1, 4-14.
 32. 村山正治 (2011) 「いわゆる『出店方式』の由来—PCA セミナーに参加して—」『九州産業大学大学院附属臨床心理センター紀要 心理臨床研究』11, 58-60.
 33. 村山正治 (2014) 「PCA グループワークの現代的意味—つながり・個人尊重・自分らしさの肯定・ダイバーシティモデルを目指して—」『立命館大学心理・教育相談センター年報』12, 3-19.
 34. 村山正治 (2014) 「PCA グループによるワークの体験学習」『立命館大学心理・教育相談センター年報』12, 22-27.
 35. 村山正治 (2014) 「いじめの予防：ポジティブフィードバックの意義：PCA グループからのアプローチ (特集 いじめへの対応と予防)」『子どもの心と学校臨床』11, 100-108.
 36. 中田行重 (1996) 「エンカウンター・グループにおけるセッション外体験の意義—3 事項を通して—」『人間性心理学研究』14(1), 39-49.
 37. 中田行重 (2001) 「研修型エンカウンター・グループにおける問題意識性を目標とするファシリテーション」東亜大学博士学位論文
 38. 野島一彦 (2000b) 「日本におけるエンカウンター・グループの実践と研究の展開—1970-1999—」『九州大学心理学研究』I, 11-19.
 39. 奥田綾子・小野晃一郎ほか (2007) 「タイアップ・プログラムにおける集中合宿エンカウンター・グループの試み—PCAGroup における企画と運営の実際—」『九州産業大学大学院附属臨床心理センター紀要 心理臨床研究』3, 45-60.
 40. 小野真由子・河崎俊博 (2017) 「国内における Person-Centered Experiential Approach の研究分布図～学会誌を中心として～」『関西大学心理臨床センター紀要』8, 57-65.
 41. 小野寺正己・河村茂雄 (2005) 「ショートエクササイズによる継続的な構成的グループ・エンカウンターが学級適応に与える効果」『カウンセリング研究』38(1), 33-43.
 42. 大田裕子・近藤進・高崎彩 (他) (2010) 「平成 21 年度タイアップ・プログラムにおける集中学習エンカウンター・グループの試み—PCA グループによる企画と運営の実態 (九州産業大学国際文化学部臨床心理学科・大学院国際文化研究科臨床心理学研究分野における体験実習タイアップ・プログラム 2009)」『九州産業大学大学院附属臨床心理センター紀要 心理臨床研究』6, 13-27.
 43. 押江隆・小黒明日香・稲田一善 (2014) 「定時制高校におけるエンカウンター・グループの事例報告：PCA グループ、コミュニティ臨床の視点から」『学校メンタルヘルス』17(2), 182-191.
 44. 押江隆・井土優・宇佐川志帆・熊谷佐紀・戸谷紀子・日高美咲・樋野友希・平田麻衣・藤田理恵・松田咲子・松田典子・三浦啓子

- (2013)「大学院の講義におけるエンカウンター・グループのファシリテーター養成の試み」『山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要』4, 69-82.
45. 押江隆・加藤寛子・水戸部準 (他) (2014)「大学院の講義におけるエンカウンター・グループのファシリテーター養成の試み (第2報)」『山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要』5, 17-26.
46. 押江隆・池ヶ谷采佳・玖村奈美・山根倫也・坂本和久・矢野慶次郎・南和宏・白石潤一・香川実穂 (2019)「地域に“つながり”を促進することを目的に実施した心理臨床ワークショップの検討 PCA グループおよびコミュニティ臨床の視点から」『山口県立大学学術情報』12, 25-35.
47. 白井祐浩・村山正治 (2005)「PCA グループによるクラス所属感の形成とその影響について」『心理臨床研究』1, 17-25.
48. 白井祐浩・木村太一・村山正治 (2006)「PCA グループにおける『メンバーズ・セッション』の意味」『九州産業大学大学院 臨床心理学論集』1, 3-9.
49. 白井祐浩・木村太一・村山正治 (2006)「タイアップ・プログラムにおける集中合宿エンカウンター・グループの試み—PCAGroup における企画と運営の実際—」『九州産業大学大学院附属臨床心理センター紀要 心理臨床研究』1, 3-9.
50. 白井祐浩 (2010)「PCA グループの視点から見た学級集団形成尺度の作成」『心理臨床学研究』28(4), 523-528.
51. 白井祐浩 (2011)「適応モデルとは異なる視点の集団形成の可能性—PCA グループの実践による多様性の視点から見た集団形成—」『人間性心理学研究』29(1), 25-35.
52. 白井祐浩 (2011)「プログラム構成からみる PCA グループの意味—必須授業における PCA グループ事例をもとにして—」『九州産業大学大学院臨床心理学論集』6, 13-17.
53. 白井祐浩 (2011)「PCA グループ実践仮説項目化の試み」『九州産業大学大学院臨床心理学論集』6, 19-26.
54. 白井祐浩 (2010)「メンバーから見た PCA グループの意味と特徴 3つのインタビュー事例を通して」『九州産業大学大学院臨床心理センター臨床心理学論集』5, 15-22.
55. 下田節夫 (1988)「ファシリテーターの専門性と人間性について—エンカウンター・グループの構造について考える—」『第21回学生相談室研究会議学生相談山口シンポジウム報告書』72-75.
56. 真仁田昭・村久保雅孝 (1989)「小学校高学年における構成的エンカウンター・グループへの取り組み—開発的教育相談に関する連携と実践—」『教育相談』27, 29-37.
57. 杉浦崇仁 (2011)「テキストマイニングを用いた複数 PCA グループにおけるセッションの意義について」東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻修士論文
58. 杉浦崇仁・古野薫・近藤崇史・楠美枝・上岡由香・吉持慕香・村山正治 (2015)「PCA グループ及び PCAGIP 法に関する文献リスト」『東亜臨床心理学研究』14, 49-54.
59. 鈴木潤也 (2009)「エンカウンター・グループの日本における導入の歴史と今後の発展においての課題」『青山心理学研究』9, 47-59.
60. 高田ゆり子・坂田由美子 (1997)「保健婦学生の自己概念に構成的グループ・エンカウンターが及ぼす効果の研究」『カウンセリング研究』3(1), 1-10.
61. 梅原永実・尾崎真寿三ほか (2009)「平成20年度タイアップ・プログラムにおける集中合宿エンカウンター・グループの試み—PCAGroup における企画と運営の実際—」『九州産業大学大学院附属臨床心理センター紀要 心理臨床研究』4, 47-58.
62. 渡辺元・杉浦崇仁・村山正治 (2012)「PCA グループのセッションの意味の分析の試み—体験感想文を手掛かりに—」『東亜臨床心理学研究』11(1), 19-28.
63. 山下栄一 (1985)「「グループアプローチへの疑問 (特集: エンカウンター・グループと

組織改革—グループ・アプローチへの疑問—」『人間性心理学研究』3, 17-19.

64. 西谷崇・森麻友子・山本朗・池田温子・別所寛人 (2018) 「PCA グループ体験がメンタルサポートを必要とする学生に及ぼす影響」『CAMPUS HEALTH』55(1), 396-398.

D. 学会発表

1. 相原誠・木村太一・森川友子 (2016) 「教育現場における PCAG のファシリテーションに関する一考察」『日本人間性心理学会第 35 回大会発表論文集』 pp.58-59.
2. 鎌田道彦 (1999) 「必修授業で行われたエンカウンター・グループの効果測定とその考察」『日本人間性心理学会第 18 回大会発表論文集』 pp.70-71.
3. 金子周平・高橋紀子・廣梅芳・安田郁 (2005) 「海外エンカウンターグループの動向について—70 年代の研究者たちはどこへ行ったのか」『日本心理臨床学会第 24 回大会発表論文集』 p.393.
4. 小黒明日香・稲田一善・押江隆 (2013) 「定時制高校における PCA グループの実践的研究 (II) —グループ実施以前の要因の検討—」『日本学校メンタルヘルス学会第 16 回大会』
5. 前田春菜・相澤亮雄・村山正治 (2016) 「入学初期に実施した PCAG の看護教員ファシリテーター体験の分析—半構造化面接による—」『日本人間性心理学会第 35 回大会発表論文集』 pp.124-125.
6. 三浦直樹 (2017) 「専修学校におけるメンバーズセッションのあるエンカウンターグループ」『日本人間性心理学会第 36 回大会発表論文集』 pp.120-121.
7. 三國牧子・福盛英明・山田俊介・高崎彩 (2017) 「宿泊型グループワークの魅力—PCA 乗鞍の参加者の声から—」『人間性心理学会第 36 回大会発表論文集』 pp.122-123.
8. 野田諭・押江隆 (2019) 「PCA を背景に持つグループの可能性を考える—ファミリーグループとコミュニティプレイセラピーの比較から—」『日本人間性心理学会大会第 38 回大会』 p.48.
9. 押江隆・小黒明日香・稲田一善 (2013) 定時制高校における PCA グループの実践的研究 (I) —PCA グループの効果とそれをもたらした要因の検討— 日本学校メンタルヘルス学会第 16 回大会
10. 白井祐浩・村山正治・石井紀子・木村太一・相原誠・樋渡孝徳・杉浦崇仁・渡辺元 (2011) 「PCA グループによる個人のあり方を尊重する学級集団の形成—効果量及び質的データの検討から—」『日本人間性心理学会第 30 回大会発表論文集』 pp.172-173.
11. 杉浦崇仁・上蘭俊和・村山正治・白井祐浩・木村太一・樋渡孝徳・相原誠・渡辺元・吉川英光 (2012) 「テキストマイニングを用いた複数 PCA グループにおけるセッションの意義について」『日本人間性心理学会第 31 回大会発表論文集』 pp.136-137.
12. 杉浦崇仁・村山正治・上蘭俊和・白井祐浩・木村太一・樋渡孝徳・相原誠・渡辺元 (2013) 「精神科デイケアにおける PCA グループの試み」『日本人間性心理学会第 32 回大会発表論文集』 p.60.
13. 杉浦崇仁・木村太一・白井祐浩・北田朋子・村山正治 (2014) 「PCA グループにおける C.R. Rogers の 3 条件の検討及び自己肯定感の変化についての考察」『日本人間性心理学会第 33 回大会発表論文集』 pp.140-141.
14. 杉浦崇仁・木村太一・白井祐浩・近藤崇史・古野薫・村山正治 (2015) 「PCA グループにおける C.R. Rogers の 3 条件の変化についての考察」『日本人間性心理学会第 33 回大会発表論文集』 pp.124-125.
15. 杉浦崇仁・木村太一・白井祐浩・古野薫・村山正治 (2017) 「PCA グループの効果と C.R. Rogers の 3 条件の関連性に関する実証的研究」『日本人間性心理学会第 36 回大会発表論文集』 pp.70-71.
16. 古谷 浩 (2020) 「入院病棟で行うピアサポート・グループの有用性の質的検討—希少がんである精巣腫瘍患者に焦点を当てて—」

『緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020 WEB 抄録集』S_42-2

E. 翻訳

1. Rogres, C.R. (1970) Carl Roger on Encounter Groups. NewYork: Harper & Row. 畠瀬稔・畠瀬直子訳 (1982)『エンカウンター・グループ—人間信頼の原点を求めて』創元社

第 2 部：PCAGIP 法

PCAGIP 法とは、Person-Centered-Approach を基に、長年の臨床経験から村山正治が開発した事例検討法である。通常のカンファレンスと違い、「事例」が主役ではなく「事例提供者」が主役である。参加者全員が事例検討の参加者として、ファシリテーターが設定した安全・安心な場の中で事例提供者に関与していく。安全な場所であるからこそ、自分を自由に表出でき、お互いの発想を自由に交わることができる。事例提供者と参加者の間で交換される質問と応答、板書記録での情報の可視化による整理を通じて全員でストーリーを上げるので、多種多様な視点が生まれ、同時に一体感、参加感、充実感が味わうことができる。また、PCAGIP 法による事例検討では「結論」を求めない。事例検討者が、今後どのようにそのケースに関わっていくかについての「ヒント」を得られれば十分なのである。つまり、問題解決の糸口を発見したり、新しい視点から事態を眺めたり、問題にもがく自分自身の感情に付き合っていくような心理的成長の視点を基盤にした事例検討法である。

A. 書籍

1. 村山正治・中田行重編 (2012)『新しい事例検討法 PCAGIP 入門—パーソン・センタード・アプローチの視点から—』創元社
2. 村山正治 (2011)『PCAGP 法の開発、伊藤義美・高松里・村久保雅孝 (編) パーソンセンタード・アプローチの挑戦—現代を生き

るエンカウンターの実際—』創元社, 307-319.

3. 村山正治 (2012)『PCAGIP 法 日本人間性心理学会 (編) 人間性心理学会ハンドブック』創元社, 388-389.

B. 書評

【該当文献なし】

C. 研究論文

1. 古田克利 (2018)「キャリアカウンセリングの事例検討法に関する実践研究：PCAGIP 法の適用可能性の検討」『関西外国語大学研究論集』108, pp.35-49.
2. 太田列子、上園俊和、三好謙一、小笠原洋、田中朋子、小林純子、白井祐浩、藤島敬久、佐藤ゆう、兵頭憲二 (2008)「臨床心理学を専攻する大学院生への PCA グループによるグループ体験の試み—体験を体験に蓄積していくプロセス」『東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理相談研究センター紀要』8, pp.25-38.
3. 押江隆・藤田洋子・植木美紀・多田佳歩・鞠川由貴・溝口英登・森原梓・山本優子・渡邊弓子 (2017)「PCAGIP 法にパーソン・センタードな個人スーパービジョンを組み合わせた「リフレキシブ PCAGIP」の開発」『教育実践総合センター研究紀要』43, pp.39-46.
4. 水野行範 (2017)「元気になる事例検討法 PCAGIP 法のすすめ (特集 ケース会議・事例検討会を元気になるものに)」『月刊学校教育相』31(8), pp.26-29.
5. 森川朋子、村山正治、峰松修、窪田由紀、伊藤弥生、平井達也 (2010)「大学院におけるケースカンファレンスの方法に関する一考察」『九州産業大学大学院臨床心理センター臨床心理学論集』5, pp.3-10.
6. 村山正治 (2002)「学校でできる新しい事例検討の実際」関西福祉大学、高校教員のためのエンパワーメント講座記録
7. 村山正治・石津寛子・金城聡・仙石裕樹・坂元美和・柴田妙・則安総一郎・福山剛・増

- 田仁美・松崎順子・三木北斗・村田裕美 (2008) 「エンカウンターグループとインシデントプロセスを組み合わせた新しい事例検討法 (PCAGIP 法) の実際 (I) —PCAGIP 法の実例の報告—」『東亜大学大学院総合学術研究科心理臨床研究』8, pp.3-10.
8. 村山正治・石津寛子・金城聡・仙石裕樹・坂元美和・柴田妙・則安総一郎・福山剛・増田仁美・松崎順子・三木北斗・村田裕美 (2008) 「エンカウンターグループとインシデントプロセスを組み合わせた新しい事例検討法 (PCAGIP 法) の実際 (II) —1 事例の逐語記録—」『東亜大学大学院総合学術研究科心理臨床研究』8, pp.11-23.
 9. 村山正治・江口尚子・衛藤萌・小埜優依・黒川明宏・立川隆一・久留玲子・前泊麻理菜・松田有加・三澤篤・山口瑞穂・奥原孝幸 (2009) 「PCAIP 法の実例 (III) —PCAGIP 法の実例の報告と考察—」『東亜大学大学院総合学術研究科心理臨床研究』9, pp.3-13.
 10. 村山正治 (2010a) 「新しい事例検討法 PCAGIP 法の実習」『九州臨床心理学妙録集』38, pp.21-28.
 11. 村山正治 (2010b) 「新しい事例検討法—PCAGIP 法の実習—事例報告者を被告にしないカンファレンスの在り方を求めて」『日本人間性心理学会大会』29, p.10.
 12. 村山正治・江口尚子・衛藤萌・小埜優依・黒川明宏・立川隆一・久留玲子・前泊麻理菜・松田有加・三澤篤・山口瑞穂・奥原孝幸 (2010) 「PCAGIP 法の実例 (IV) —1 事例の逐語記録—」『東亜大学大学院総合学術研究科心理臨床研究』10, pp.43-65.
 13. 村山正治・桑野浩明・津田優子・松本沙紀・木村友香・静間裕子・八丁春美・廣川望・東村通紘 (2012) 「PCAGIP 法の実例 (V) —2 事例の逐語記録—」『東亜臨床心理学研究 (11)』1, pp.45-84.
 14. 村山正治・池田紘子・大石沙耶香・北田朋子・新開佳子・杉浦宗仁・田中正江・中村加奈・古野薫・村上恵子 (2013) 「PCAGIP 法の実例 (VI) —参加者の体験報告—」『東亜大学大学院総合学術研究科心理臨床研究』13, pp.45-64.
 15. 村山正治 (2014) 「PCAGIP 法のライブセッション—PCA グループをベースにした新しい事例検討法」『立命館大学心理・教育相談センター年報』12, 28-41.
 16. 村山正治 (2014) 「PCAGIP セミナークロージングセッション」『立命館大学心理・教育相談センター年報』12, 42-60.
 17. 村山正治・古野薫・村上恵子・近藤崇史・新開佳子・楠美枝・北田朋子・畑中美穂 (2015) 「PCAGIP 法の実例 (VII)」『東亜大学大学院総合学術研究科心理臨床研究』
 18. 村山正治, 浦野俊美, 渡辺隆 (2019) 「5 年間の播磨 PCAGIP プロジェクトの軌跡」『東亜臨床心理学研究』18, pp.5-11.
 19. 内藤裕子 (2017) 「養護教諭養成における PCAGIP 法の活用と効果 (2) —評価尺度の作成—」『教職研究』pp.59-67.
 20. 後山未来, 永田雅樹, 金井孝俊, 垣垂紗妃, 甲山めぐみ, 水村明音, 吉川真央, 池見陽 (2018) 「PCAGIP における夢の意味の創造性: ホラーから友情物語に姿をかえた夢」『関西大学臨床心理専門職大学院紀要』8, pp.1-10.
 21. 野島一彦・坂中正義 (2010) 「わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2009)」『九州大学総合心理臨床研究』2, pp.101-121.
 22. 野島一彦・坂中正義 (2011) 「わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2010)」『九州大学総合心理臨床研究』3, pp.185-198.
 23. 野島一彦・坂中正義 (2013a) 「わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2011)」『九州大学総合心理臨床研究』4, pp.143-162.
 24. 野島一彦・坂中正義 (2013b) 「わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2012)」『跡見学園女子大学付属心理教育相談所紀要』9, pp.3-18.
 25. 野島一彦・坂中正義 (2014) 「わが国の

- 「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2013)『跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要』10, pp.3-25.
26. 野島一彦・坂中正義 (2015)「わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2014)」『跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要』11, 5-23.
 27. 並木崇浩・小野真由子 (2016)「PCAGIP 法研究の動向と課題」『関西大学心理臨床センター紀要』7, pp.91-100.
 28. 小野真由子 (2018)「PCAGIP 法の実践における書記の工夫と今後の課題」『関西大学心理臨床センター紀要』9, pp.23-28.
 29. 坂中正義 (2009)「日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2008)」『福岡教育大学心理相談研究』13, pp.9-29.
 30. 坂中正義 (2010)「日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2009)」『福岡教育大学心理相談研究』14, pp.27-50.
 31. 坂中正義 (2011)「日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2010)」『福岡教育大学心理相談研究』15, pp.29-50.
 32. 坂中正義 (2012)「日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2011)」『福岡教育大学心理相談研究』16, pp.1-20.
 33. 坂中正義 (2013)「日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2012)」『福岡教育大学心理相談研究』17, pp.1-23.
 34. 坂中正義 (2014)「日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2013)」『南山大学人間関係研究センター紀要人間関係研究』13, pp.231-255.
 35. 坂中正義 (2015)「日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2014)」『南山大学人間関係研究センター紀要人間関係研究』14, pp.241-274.
 36. 坂本直也 (2011)「スクールカウンセリ
ングにおける教員研修の実践に関する研究：PCAGIP 法を参考にした事例検討について」『人間と環境』2, pp.85-96.
 37. 仙頭彩奈・深津典子 (2014)「心理臨床センタースタッフ研修におけるケースカンファレンスに関する一考察：従来のケースカンファレンスと PCAGIP 法の比較を通して」『明治学院大学心理学部附属研究所年報』7, pp.53-62.
 38. 徳田完二 (2014)「事例検討法をめぐる考察—PCAGIP をヒントとして—」, 『立命館大学・教育相談センター年報』12, pp.62-68.
 39. 筒井優介 (2015)「夢 PCAGIP の試み：グループにおける相互作用の活用」『関西大学臨床心理専門職大学院紀要』5, pp.73-81.
 40. 筒井優介 (2018)「夢 PCAGIP において意味はどのように成立しているのか：ある妊娠の夢を実例として」『人間性心理学研究』36(1), pp.21-31.
 41. 小野真由子 (2020)「パーソン・センタード・セラピーの展開」事例提供者の発言に着目した PCAGIP 法における体験の特徴, 『関西大学心理臨床センター紀要』11, pp.67-76.
 42. 井出智博「PCAGIP 法における PCA の人間観 PCAGIP と私」, 『東亜臨床心理学研究』18, pp.57-58.
 43. 堀尾直美 (2019)「PCAGIP 法における PCA の人間観 PCAGIP における実践と人間観 私の場合」, 『東亜臨床心理学研究』18, pp.59-61.
 44. 望月洋介 (2019)「PCAGIP 法における PCA の人間観 PCAGIP の人間観「私」の場合」, 『東亜臨床心理学研究』18, pp.62-64.
 45. 石倉篤, 清澤亜希子, 田中雄大, 原田祐奈, 堀川優依, 中田行重 (2019)「若手心理臨床家の指定大学院修了後の歩み変化・成長をめぐる PCAGIP 法を通じた探索的検討」, 『関西大学臨床心理専門職大学院紀要』9, pp.13-21.
 46. 島根県教育センター浜田教育センター教育センタースタッフ (2019)「学校現場を支える教育センターの役割～「ケース」支援を通

じて〜』『島根県教育センター浜田教育センター研究紀要』R1-6.

47. 南雅則, 松本剛 (2018) 「中学校教師を対象とした PCAGIP 法を用いた事例検討の効果に関する研究」, 『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』11, pp.113-120.

D. 学会発表

1. 日笠摩子・村山正治・堀尾直美・佐藤文彦・宮沢志津枝・小坂淑子・野々口知子・亀田久美子・久羽康 (2011) 「パーソンセンタード・アプローチ流の事例検討のあり方Ⅱ—PCAGIP 法の実際—」『日本心理学会第 30 回大会発表論文集』 p700.
2. 井出智博 (2013) 「児童養護施設における“機能する事例検討会”の創造—PCAGIP を用いた取り組み—」『日本人間性心理学会第 32 回大会プログラム・発表論文集』 p162.
3. 望月洋介 (2015) 「ファシリテーターが感情的に巻き込まれた状況での PCAGIP のファシリテーション」『日本人間性心理学会第 34 回大会発表論文集』 pp.86-87.
4. 南陽子・村山正治 (2017) 「キャリアコンサルティングへの PCAGIP 法導入の意義と課題」『日本人間性心理学会第 36 回大会発表論文集』 pp.124-125
5. 村上恵子・北田朋子・村山正治 (2015) 「大学院ケースカンファレンスにおける PCAGIP 法の試み—事例提供・プロセス・結果・意義の考察—」『日本人間性心理学会第 34 回大会発表論文集』 pp.82-83.
6. 村山正治・中田行重 (2019) 「日本の組織変革へ PCAGIP 導入の実際と社会貢献」『日本人間性心理学会大会第 38 回大会』 p51.
7. 村山正治 (2020) 「PCAGIP の発想と実際事例の提示」『日本心理臨床学会第 39 回プログラム』 p10.
8. 並木崇浩 (2017) 「PCAGIP の場に関する—考察—アンケートの質的分析を通して—」『日本人間性心理学会第 36 回大会発表論文集』 pp.74-75
9. 内藤裕子 (2017) 「被災地に勤務する養護教諭のエンパワメントを目的とした PCAGIP の実践と効果」『日本人間性心理学会第 36 回大会発表論文集』 pp.88-89
10. 内藤裕子 (2018) 「PCAGIP のエンパワメント効果—被災地の養護教諭を対象として—」『日本人間性心理学会第 37 回大会発表論文集』 pp.86.
11. 内藤裕子 (2019) 「養護教諭養成における PCAGIP の活用と効果 (3) —効果測定尺度と効果要因の検討—」『日本人間性心理学会大会第 38 回大会』 p.84.
12. 中島真夕 (2016) 「スクールカウンセラーが行う PCAGIP—工夫とその効果—」『日本人間性心理学会第 35 回大会発表論文集』 pp.76-77.
13. 成田有子 (2018) 「産業領域で行う PCAGIP マネ・ピカ〜マネージャーどうしの内省的対話をもたらすもの〜」『日本人間性心理学会第 37 回大会発表論文集』 pp.41.
14. 野村陽子 (2019) 「医療従事者のメンタルヘルスにおける Prevention としての PCAGIP 法導入から継続まで」『日本人間性心理学会大会第 38 回大会』 p.60.
15. 小野真由子 (2017) 「PCAGIP 法における効果の検索—事例提供者の体験に着目して—」『日本人間性心理学会第 36 回大会発表論文集』 pp.72-73.
16. 小野真由子 (2018) 「事例提供者の PCAGIP 体験のプロセス—1年後のインタビュー調査から—」『日本人間性心理学会第 37 回大会発表論文集』 pp.59.
17. 押江隆・宮武ゆかり、瓜崎貴雄 (2010) 「他職種との協同に向けたグループ・アプローチによる研修会の検討 (2) —精神科ソーシャルワーカーと臨床心理士による PCAGIP を用いた事例検討—」『日本心理臨床学会第 29 回大会発表論文集』 p.376.
18. 押江隆・山根倫也・坂本和久・玖村奈美 (2017) 「体験過程スケールによるリフレキシブ PCAGIP のプロセス研究」『日本人間性心理学会第 36 回大会発表論文集』 pp.90-91
19. 筒井優介 (2017) 「夢 PCAGIP—グループ

- で夢を楽しむ」『Proceedings: The First Asia Focusing International Conference (第1回アジア・フォーカシング国際会議プログラム・抄録集)』pp.52.
20. 宇都宮敦子 (2014) 「障害を持つ子供の母親への支援—PCAGIP 法を使ったグループワーク—」『日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集』p.173.
21. 湯本幸平 (2013) 「市役所役員を対象としたグループアプローチの実践報告—PCAGIP 法で育てる“元気の芽”—」『日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集』p.116.
22. 足利学 (2017) 「超高齢社会の未来・認知症の発症予防と予後予測 地域で高齢者に関わる医療・福祉専門職を応援する 新しい事例検討会 (PCAGIP 法) の試み」, 『日本未病システム学会学術総会抄録集 24 回』 p.59.

E. 翻訳

【該当文献なし】

おわりに

文献リストの誤字・脱字、ならびに記入上の誤りを見つけられた方、また、記載させていただいた論文を執筆された方で記載不備のある論文等あれば、以下の連絡先まで御連絡いただければ幸いです。

連絡先

〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1
東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻
村山正治

E-mail:[PCAG・PCAGIP]nakayamak@toua-u.ac.jp (中山幸輝)